② 特別養護老人ホーム「まどか荘」訪問

4年前から「まどか荘」訪問を実施している。当初は関係機関からの要請による生徒会役員を中心とした一部の生徒の活動であった。従ってボランティアの意義も十分理解されず，生徒・教師ともにさせられているという意識が強かった。ボランティア教育の一環として全員に体験させたいというボランティア担当教師の意見から，学年単位で年に一度ずつの訪問に改めた。しかし，一人一人の生徒にとっては，年に一度の体験ではなかなか深まりのない活動となっていた。そこで今年度から，学年を追うごとに広がり深まるよう1年生はこれまで実施してきたような訪問，2・3年生は総合的な学習の時間での訪問とした。総合的な学習の時間には，よりお年寄りとかかわれる体験的な活動や村の問題として老人福祉について考えさせるように計画した。

平成12年度

ボランティア活動実施計画

都路村立都路第二中学校

1 目 的
(1) ボランティア活動を通してその意義と価値について認識させる。
(2) 地域の福祉施設である「まどか荘」についての理解を深めさせる。
(3) 高齢化社会における諸問題について考えさせるとともに、社会の一員として主体的に社会参加しようとする意識を高める。
(4) 地域の清掃活動を通して、地域や自然を愛する態度を育むとともに環境問題について考えさせる。

2 内 容

(1) まどか荘訪問
①お年寄りとのふれあい活動
②お年寄りの介護実践
③施設の清掃活動

(2) 地域のお年寄りとの交流
①敬老会への参加
②一人暮らしの老人宅訪問
③校内文化祭、体育際での交流

(3) 地域の清掃活動
①通学路や岩井沢体育館の清掃
②小中合同奉仕作業
③山のゴミ拾い
④五十人山登山道のゴミ拾い

(4) 募金活動
①赤い羽根共同募金
②その他の募金

3 実施方法
(1) 学年としてのまどか荘訪問は1年生で行う。2年生は総合的な学習の取り組みの一つとして実施する。
(2) 地域のお年寄りとの交流や募金活動はＪＲＣ部会と希望者で行う。
(3) 村敬老会への参加は3年生とＪＲＣ部会で行う。
(4) 月曜日の生徒会の日や創意の時間を活用する。
(5) まどか荘訪問の活動内容については前もって「まどか荘」と連絡調整する。
(6) 事前、事後指導については各学年の学級活動や道徳の時間に位置づけ実施する。
(7) 交通手段については村バスの協力を得る。事前に係が手配する。
(8) 清掃用具等は学校の用具又は、各自持参させる。準備に必要な物品については協議し、学校を通して購入する。

4 活動日
(1) まどか荘訪問
6月29日（木）…1学年（18名）活動時間14：30～15：30
出発 14：20 帰校15：40
(2) 小中合同奉仕作業 6月21日（水）
(3) 河川清掃 8月31日（木）
(4) 文化祭、体育祭への招待 10月21日（土）、22日（日）
(5) その他の活動はＪＲＣ部、学年で計画して進める。

また，昨年度からボランティア協力校として指定を受け，県ボランティアセンターの協力の下，講演や高齢者疑似体験などの活動も取り入れている。

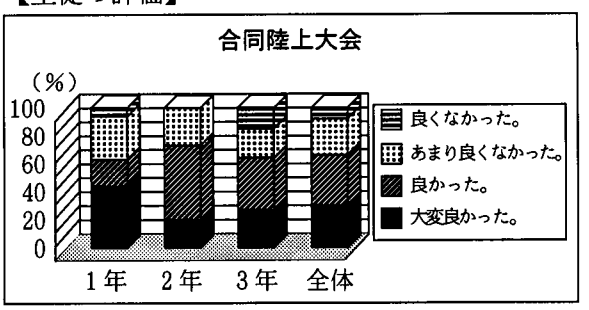
〈考察〉

これらの活動を行うため，学年での教師の話し合いはもちろん，他学年との連携が多く見られるようになり，活動も充実し，生徒たちの意欲も高まりつつある。3年生は，休日開催の村の敬老会にボランティアとして参加し，積極的にお年寄りとかかわる姿が見られた。

(2) 近隣校との連携を図る教育

① 校内陸上大会の近隣校との合同開催

例年生徒の陸上競技能力を理解するとともに，郡陸上大会の選手選考を兼ねた校内陸上大会を開催している。しかし，全校生徒54名でしかも小学校から一緒に生活しているという環境では，互いの能力を理解し，競い合い，高め合うという意識がほとんど見られない。

これらの課題の解決と，近隣校の連携を図る目的で，一中・二中合同陸上大会を実施することにした。両校で共通して行っている行事であり，内容もほぼ同じであるので比較的容易に進めることができた。教育課程を編成する段階から，村教頭会での日程調整，各校の担当者による打合せを実施した。体育主任どうしの種目等のプログラム編成を中心に，給食，生徒の送迎にかかわる打合せを計画的に行い実施した。

【生徒の評価】